
我孫子市鳥の博物館報

第30号 令和元年度版

我孫子市鳥の博物館

目 次

1 博物館概要	2
1.1 博物館設置の目的と背景	2
1.2 運営方針	2
1.3 活動内容	2
1.4 博物館の歴史	2
1.5 博物館施設の概要	6
2 教育普及	9
2.1 展示	9
2.2 展示ガイド	10
2.3 観察会・講座・フロアスタッフイベントほか	10
2.4 出版物	12
2.5 広報・取材協力	12
2.6 職場体験受入	12
2.7 出前授業・講師派遣・アドバイザー派遣など	12
2.8 研修受入	12
2.9 鳥に関する質問	12
2.10 違法飼育鳥鑑定協力	13
3 調査研究	13
4 資料の収集・保存	14
4.1 標本資料	14
4.2 図書資料	14
4.3 資料等貸出利用協力	14
4.4 燻蒸	14
5 総務ほか	15
5.1 組織	15
5.2 予算の執行状況	16
5.3 ミュージアムショップの運営	16
5.4 入館者数	18
6 条例・規則	19
7 博物館入館案内	22

1 博物館概要

1.1 博物館設置の目的と背景

我孫子市鳥の博物館は、人に身近な鳥をとおして自然環境への理解と関心を深め、野生生物の保護意識を高め、市のシンボルでもある手賀沼の浄化・再生を図るという目的で、平成2年5月22日に手賀沼のほとりに設置された。

手賀沼は周辺の都市化が進み、人口が急増した昭和40年代から水質の汚濁が始まり、昭和49年以降全国の湖沼の中で水質汚濁度ワースト1を記録していた。このような状況から、我孫子市は手賀沼の浄化を願い、昭和60年に「手賀沼のほとり、やすらぎのまち」をめざした基本構想を策定した。これに並行して、昭和59年、鳥類の研究・保護活動で知られる(財)山階鳥類研究所を誘致した。さらに同研究所の協力を得て、市民が人と鳥の共存について考え、鳥や自然環境に関する情報を得ることが出来る施設として「我孫子市鳥の博物館」を設置した。

手賀沼の水質ワースト1は27年間続いたが、さまざまな浄化対策が功を奏し、平成12年にピリオドを打った。我孫子市は、平成14年に、我孫子市第三次総合計画「手賀沼のほとり心輝くまち～人・鳥・文化のハーモニー～」をめざした基本構想・基本計画を策定し、環境施策目標として、手賀沼の水質浄化に加えて豊かな生態系の復活を掲げた。こうした施策を実現する上で、鳥の博物館は、環境学習を行う社会教育施設として重要な役割を果たしている。

1.2 運営方針

鳥の博物館は、市が主体となり、関係機関の協力を得て運営する。

この博物館が、多くの人に永く愛され、質の高いまちづくりに寄与するよう、適切な運営を図る。

市民が受け身に利用するだけでなく、積極的な利用を促すため、市民スタッフ制度の導入や友の会との協働イベントなど、市民が参加しやすい事業展開を図る。

来館者が効果的に見学できるように、ハンズオンを取り入れた体験学習コーナーを設ける。

また、博物館周辺の自然環境をフィールドミュージアムととらえ活用する。

以上の方針に沿って、楽しさ、利用しやすさ、質の高い情報提供を追及し運営する。

1.3 活動内容

鳥の博物館の活動は、次のとおり。

- ・鳥類を中心とした総合的な展示。
- ・鳥類を中心とする公開講座、自然観察会、実習等の開催、体験学習の充実。
- ・鳥類に関する資料の収集及び保存、調査・研究。
- ・鳥類と自然環境に関する情報の提供(図書や文献の収集・整理、閲覧、出版)。
- ・鳥類と自然環境の保護啓発活動。
- ・ミュージアム・ショップでの書籍・資料・記念品

等の販売。

1.4 博物館の歴史

(1)開館までの経緯

昭和60年6月に我孫子市鳥類展示館建設委員会が設置され、鳥の博物館の基本構想が策定された。

その5年後の平成2年5月22日、我孫子市鳥の博物館が開館した。

博物館ができるまでの5年間の主なできごとは次のとおりである。

-----開館までの主なできごと-----

- ・昭和60年6月7日：我孫子市鳥類展示館建設委員会(当初は展示館構想であったため、この名がついた)が設置され、基本構想・基本計画の検討がはじまる。
- ・同年8月26日：(仮称)我孫子市鳥の博物館基本構想が策定される。
- ・昭和61年3月31日：(仮称)我孫子市鳥の博物館基本計画が策定される。
- ・同年5月7日：これまで所管していた企画部企画課から、教育委員会社会教育課に事務が移管される。
- ・昭和62年4月21日：(仮称)我孫子市鳥の博物館建設委員会が設置され、本体及び展示工事の設計業者の選定に入る。
- ・同年7月30日：企画書競争選抜により、展示設計業者が株式会社日展に決定。
- ・同年8月8日：設計競争選抜により、本体設計業者が有限会社山下設計研究所に決定。
- ・昭和63年7月15日：整地工事(葵開発株式会社)開始。
- ・同年8月31日：整地工事完了。
- ・同年10月19日：本体建設工事(本体工事=東急・上村建設共同企業体、電気工事=モデン・玉田建設共同企業体)開始。
- ・平成元年6月20日：展示工事(株式会社日展)開始。
- ・同年7月24日：本体工事が完了する。
- ・同年8月1日：トキの剥製が、野瀬俊一氏(長野県佐久市在住)から寄託される。
- ・同年8月10日：外構工事(東急・上村建設共同企業体)開始。
- ・同年9月30日：外構工事が完了する。
- ・同年11月1日：我孫子市鳥の博物館協議会が設置される。
- ・同年11月30日：(仮称)我孫子市鳥の博物館建設委員会が解散される。
- ・同年12月15日：吉村卓三氏(動物作家)からエピオルニス(世界最大の卵)が寄贈される。
- ・平成2年3月20日：展示工事が完了する。
- ・同年5月22日：開館。

(2)開館後の主なできごと

鳥の博物館は、平成2年5月に開館して以来、企画展をはじめ、さまざまな活動を行ってきた。

開館から現在(令和年3月)までの主な事業および出来事は、つぎのとおりである。

-----開館後の主なできごと-----

- ・平成2年5月22日～7月22日：第1回企画展「巨鳥の歩んだ道」開催(入館者：37,764人)。
- ・平成2年6月3日：入館者1万人達成。
- ・平成2年7月24日～10月28日：第2回企画展「巨鳥の歩んだ道Ⅱ」開催(入館者：31,689人)。
- ・平成2年8月18日：入館者5万人達成。
- ・平成2年11月1日～12月2日：第3回企画展「オーデュボンの描いた野鳥たち-ワイルドライフ・アートへの招待-」開催(入館者：7,483人)。
- ・平成2年12月11日～平成3年1月27日：第4回企画展「新着標本展」開催(入館者：5,969人)。
- ・平成3年2月1日～4月7日：第5回企画展「ガン・カモの世界-水辺の住人、ガン・カモの暮らし-」開催(入館者：15,356人)。
- ・平成3年4月13日～6月23日：第6回企画展「鷹匠-道具でつづる鷹匠の世界-」開催(入館者：28,193人)。
- ・平成3年4月13日：入館者10万人達成。
- ・平成3年7月20日～10月13日：第7回企画展「沖縄の野鳥-みつめたい沖縄の自然-」開催(入館者：32,869人)。
- ・平成3年10月22日～11月24日：第8回企画展「日剥展-剥製師によるジオラマ作品展-」開催(入館者：8,875人)。
- ・平成3年4月1日：日本博物館協会、全国科学博物館協会、千葉県博物館協会へ加盟。
- ・平成3年7月24日：学芸員実習生受入開始。
- ・平成3年9月15日：博物館法にもとづく公立博物館登録。
- ・平成3年12月1日～平成4年5月31日：第9回企画展「オーデュボンの世界-史上最高の図鑑画-」開催(入館者：43,271人)。
- ・平成4年4月5日：入館者20万人達成。
- ・平成4年6月7日～10月25日：第10回企画展「繁殖展-手賀沼で子育てする鳥たち-」開催(入館者：42,154人)。
- ・平成4年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成4年11月1日～平成5年4月11日：第11回企画展「ヤマドリ展-いつまでも山野にはばたけ-」開催(入館者：30,606人)。
- ・平成5年4月17日～9月26日：第12回企画展「庭に来る鳥-その鳴き声と姿-」開催(入館者：42,724人)。
- ・平成5年5月1日：入館者30万人達成。
- ・平成5年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成5年10月2日～平成6年2月27日：第13回企画展「鳥の形とくらしⅠ-餌とくちばし-」開催(入館者：24,294人)。
- ・平成6年3月1日～5月5日：第14回企画展「切手の中の鳥たち-切手になった日本の鳥展-」開催(入館者：18,522人)。
- ・平成6年5月21日～10月23日：第15回企画展「都市鳥-都会派の鳥たち-」開催(入館者：32,605人)。
- ・平成6年7月30日：入館者40万人達成。
- ・平成6年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成6年10月29日～平成7年2月26日：第16回企画展「黒田長久・鳥絵の夢-はばたきのロマン-」(入館者：14,137人)。
- ・平成7年3月5日～7月16日：第17回企画展「鳥の形とくらしⅡ-あしのはたらき-」開催(入館者数：26,285人)。
- ・平成7年7月23日～12月27日：第18回企画展「沖縄の野鳥Ⅱ-ヤンバルの鳥たち-」(入館者数：23,231人)。
- ・平成7年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成8年1月14日～4月23日：第19回企画展「収蔵標本展'96-なぜ標本を集めるの-」開催(入館者数：13,710人)。
- ・平成8年4月28日～10月24日：第20回企画展「鳥の感覚器官Ⅰ-鳥の目のしくみとはたらき-」開催(入館者数：32,519人)。
- ・平成8年5月3日：入館者50万人達成。
- ・平成8年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成8年11月2日～平成9年5月25日：第21回企画展「ペンギンのルーツをさぐる」開催(入館者：25,914人)。
- ・平成9年5月31日～9月28日：第22回企画展「日本の鳥展」開催(入館者：19,435人)。
- ・平成9年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成9年10月4日～11月30日：第23回企画展「オーデュボン展」開催(入館者：7,116人)。
- ・平成9年12月6日～平成10年3月1日：第24回企画展「新着収蔵標本展'98」開催(入館者：4,850人)。
- ・平成10年3月7日～7月26日：第25回企画展「鳥の形とくらしⅢ-つばさと飛行-」開催(入館者：23,840人)。
- ・平成10年5月13日：入館者60万人達成。
- ・平成10年夏期：学芸員実習生受入。
- ・平成10年9月5日～11月29日：第26回企画展「身近な鳥Ⅰ-ツバメ・ムクドリ・ハシブトガラス-」開催(入館者：10,067人)。
- ・平成10年12月5日～平成11年3月28日：第27回企画展「オーデュボン展-150年前に描かれた北アメリカの鳥類-」開催(入館者：9,865人)。
- ・平成11年4月10日～7月11日：第28回企画展「手賀沼の鳥-数から見た鳥のくらし-」開催(入館者：13,417人)。
- ・平成11年7月17日～10月31日：第29回企画展「新着収蔵標本展'99-博物館にやってきた鳥たち-」開催(入館者：13,426人)。
- ・平成11年11月27日～平成12年4月23日：第30

- 回企画展「身近な鳥展Ⅱ-コサギ、キジバト、シジュウカラ」開催(入館者:5,778人)。
- 平成12年2月26日~4月23日:第31回企画展「身近な鳥展Ⅲ-オオバン、ユリカモメ、オナガ」開催(入館者:5,670人)。
 - 平成12年4月11日:長崎大学よりトキ寄贈。
 - 平成12年4月29日~8月27日:第32回企画展「里山の鳥-サシバの見た里山の自然-」開催(入館者:16,969人)。
 - 平成12年9月9日~11月5日:第33回企画展「収蔵庫の中のレッド・データ・バード-絶滅のおそれのある日本の鳥たち-」開催(入館者数:5,938人)。
 - 平成12年10月18日:入館者70万人達成。
 - 平成12年11月18日~平成13年4月8日:企画展示室に「日本の鳥コーナー」展示(入館者数:11,363人)。
 - 平成12年12月1日~平成13年2月28日:博物館屋根改修および防水修繕工事実施(上村建設工業株式会社、工事費8,614,830円)。
 - 平成13年4月21日~9月2日:第34回企画展「鳥の食卓-メニューとマナー-」開催(入館者数:20,098人)。
 - 平成13年4月29日:鳥の博物館友の会発足
 - 平成13年5月:Enjoy手賀沼開始
 - 平成13年7月15日:体験学習室オープン。
 - 平成13年9月22日~平成14年2月10日:企画展示室に「日本の鳥コーナー」展示(入館者数:15,620人)。
 - 平成13年11月:ジャパンバードフェスティバル開始
 - 平成14年2月23日~4月14日:第35回企画展「オーデュボンの描いた鳥たち」(入館人数:5,212人)
 - 平成14年6月15日~10月27日:第36回企画展「岡発戸の谷津田の鳥と自然Ⅰ」(入館人数:18,184人)。
 - 平成14年4月:館内ガイドツアーの開始
 - 平成14年4月:階段ギャラリーの設置
 - 平成14年11月9日~平成15年3月30日:企画展示室に「日本の鳥コーナーⅠ」展示(入館人数:12,712人)。
 - 平成15年4月:フロアスタッフ(嘱託職員)配置
 - 平成15年4月:フロアスタッフイベント開始
 - 平成15年4月:あびこ自然観察隊の開始
 - 平成15年4月12日~6月22日:企画展示室に「日本の鳥コーナーⅡ」展示(入館人数:9,364人)。
 - 平成15年4月24日:入館者80万人達成。
 - 平成15年6月28日~9月28日:第37回企画展「羽毛のふしぎ」開催(入館者数:11,861人)。
 - 平成15年8月30日:ミュージアムコンサート(チェンバロ)開始
 - 平成15年10月4日~平成16年2月1日:第38回企画展「鳥と木の実」開催(入館人数:11,854人)。
 - 平成16年2月21日~6月27日:企画展示室に「日本の鳥コーナー」展示(入館者数:15,004人)。
 - 平成16年4月:てがたん(手賀沼定例探鳥会)開始
 - 平成16年7月10日~10月3日:第39回企画展「骨が語る鳥のくらし」開催(入館者数:10,544人)。
 - 平成16年10月9日~11月7日:第40回企画展「第1回友の会展」開催(入館者数:5,656人)。
 - 平成16年11月20日~平成17年4月24日:企画展示室でテーマ展「日本の鳥」開催(入館者数:14,971人)。
 - 平成17年4月:鳥の博物館市民スタッフ制度導入
 - 平成17年4月:多目的ホールの開設。多目的ホールに体験学習室を移設し、元体験学習室は「友の会・市民スタッフルーム」として設置。
 - 平成17年4月29日~9月18日:第41回企画展「あびこにコウノトリがやってきた」開催(入館者数:18,641人)。
 - 平成17年8月:夏休みフロアスタッフイベント開始
 - 平成17年8月20日:入館者90万人達成。
 - 平成17年10月1日~11月20日:第42回企画展「第2回友の会展」開催(入館者数:7,800人)。
 - 平成17年12月3日~平成18年1月29日:企画展示室で「日本の鳥コーナーⅠ-北の鳥たち-」展示(入館者数:3,035人)。
 - 平成18年2月4日~4月23日:企画展示室で「日本の鳥コーナーⅡ-多様な自然環境と日本の鳥たち-」展示(入館者数:7,733人)。
 - 平成18年4月29日~9月24日:第43回企画展「あびこの公園の鳥たち」開催(入館者数:17,037人)。
 - 平成18年夏期:学芸員実習生受入。
 - 平成18年10月1日~11月19日:第44回企画展「第3回友の会展」開催(入館者数:8,492人)。
 - 平成18年12月2日~19年1月21日:第45回企画展「日本の鳥-収蔵庫の標本一堂に公開-」開催(入館者数:2,775人)。
 - 平成19年2月1日~同年5月13日:第46回企画展「鶏民芸品展-秋篠宮コレクション-」開催(入館者数:12,996人)。
 - 平成19年6月9日~9月23日:第47回企画展「てがたん-手賀沼フィールドミュージアムへの誘い-」開催(入館者数:11,299人)。
 - 平成19年10月6日~11月25日:第48回企画展「第4回友の会展」開催(入館者数:6,770人)。
 - 平成19年12月8日~平成20年3月30日:第49回企画展「日本の鳥コーナー-図鑑とちがう標本になった鳥たち-」開催(入館者数:7,333人)。
 - 平成20年4月8日:フクロウ巣箱に3個の卵を確認。
 - 平成20年4月12日~9月15日:第50回企画展「鳥のくらし」
 - 平成20年5月4日:入館者100万人達成。柏市在住。本館友の会会員、上村朋子さん。
 - 平成20年4月12日~9月15日:第50回企画展「鳥のくらし-ジオラマで見る鳥の生活-」開催(入館

- 者数：18,294人)。
- ・平成20年5月15日：フクロウ巣箱に3羽の雛を確認。
 - ・平成20年10月4日～11月24日：第51回企画展「第5回友の会展」開催(入館者数：6,698人)。
 - ・平成20年12月6日～平成21年3月20日：第52回企画展「日本の鳥展-骨格編-」開催(入館者数：8,750人)。
 - ・平成21年1月1日：元日特別開館試行
 - ・平成21年4月11日～9月29日：第53回企画展「てがたん展パート2-かかわりあって暮らす身近な生き物-」開催(入館者数：19,569人)。
 - ・平成21年10月1日～11月27日：第54回企画展「第6回友の会展」開催(入館者数：8,782人)。
 - ・平成21年12月5日～平成22年3月28日：第55回企画展「日本の鳥-収蔵庫の中の身近な鳥たち-」開催(入館者数：8,315人)。
 - ・平成22年1月1日：元日特別開館
 - ・平成22年5月1日～9月20日：第56回企画展「鳥たちの旅-渡り鳥のくらしを追う-」開催(入館者数：16,790人)。
 - ・平成22年10月2日～11月28日：第57回企画展「第7回友の会展」開催(入館者数：8,410人)。
 - ・平成22年12月4日～平成23年4月24日：第58回企画展「楚人冠と鳥」開催(入館者数：6,688人)。
 - ・平成23年1月1日：元日特別開館
 - ・平成23年3月15日～4月15日：震災のため臨時休館。
 - ・平成23年4月29日～7月10日：第59回企画展「てがたん展パート3-身近な自然、季節の出会い-」開催(入館者数：9,147人)。
 - ・平成23年7月16日～10月23日：第60回企画展「ジオラマで見る鳥のくらし-食事編-」開催(入館者数：12,021人)。
 - ・平成23年10月29日～11月27日：第61回「バードカービング優秀作品展」開催(入館者数：1,877人)。
 - ・平成23年12月1日～平成24年1月27日：第62回企画展「第8回友の会展」開催(入館者数：2,797人)。
 - ・平成24年2月11日～11月25日：第63回企画展「日本の鳥-鳥博コレクション展-」開催(入館者数：27,559人)。
 - ・平成24年12月3日～平成25年1月29日：第64回企画展「第9回友の会展」開催(入館者数：2,383人)。
 - ・平成25年2月9日～6月30日：第65回企画展「身近な鳥-我孫子の鳥を調べてみたら-」開催(入館者数：12,524人)。
 - ・平成25年7月13日～12月1日：第66回企画展「鳥の骨展-空と骨組み-」開催(入館者数：14,005人)。
 - ・平成25年12月7日～1月13日：第67回企画展「第10回鳥の博物館友の会展-手賀沼周辺の探鳥地&ワクワク友の会ライフ-」開催(入館者数：1,757人)。
 - ・平成26年1月25日～6月29日：第68回企画展「日本の鳥-鳥の見わけかた-」開催(入館者数：13,498人)。
 - ・平成26年7月12日～11月30日：第69回企画展「山階コレクション展-日本の鳥学を築いた研究所の貴重標本-」開催(入館者数：16,558人)。
 - ・平成26年8月22日：国際鳥類学会議なか日ツアーにより鳥の博物館見学
 - ・平成26年12月13日～平成27年1月25日：第70回企画展「第11回友の会展-親子で楽しむ手賀沼周辺探鳥地-」開催(入館者数：2,248人)。
 - ・平成27年2月7日～6月28日：第71回企画展「鳥の鳴き声展」開催(入館者数：14,615人)。
 - ・平成27年5月24日：開館25周年記念講演会「鳥の博物館のこれから」開催(参加者数：60人)。
 - ・平成27年7月11～9月6日：第72回企画展「アホウドリ展～復活への挑戦～」開催(入館者数：6,016人)。
 - ・平成27年9月12日～12月6日：第73回企画展「飛んでる鳥展-飛翔型コレクション-」開催(入館者数：11,298人)。
 - ・平成27年12月：タッチ式デジタルサイネージ設置
 - ・平成27年12月12日～平成28年1月24日：第74回企画展「第12回友の会展-手賀沼でバードウォッチング-」開催(入館者数：2,237人)。
 - ・平成28年2月6日～6月26日：第75回企画展「フクロウさんちの子育て日記」開催(入館者数：14,412人)。
 - ・平成28年7月9日～11月6日：第76回企画展「我孫子の鳥図鑑-市内で見られる鳥全種の標本-」開催(入館者数：16,816人)。
 - ・平成28年11月7日～平成29年1月31日：鳥の博物館空調設備更新工事につき閉館
 - ・平成29年2月11日～6月25日：第77回企画展「鳥の子育て-ジオラマで見る鳥の繁殖-」開催(入館者数：14,910人)。
 - ・平成29年7月15日～11月26日：第78回企画展「鳥・西・鶏、とり」開催(入館者数：17,912人)。
 - ・平成29年12月9日～平成30年1月14日：第79回企画展「第13回友の会展」開催(入館者数：2,003人)。
 - ・平成30年1月27日～6月24日：第80回企画展「日本の海鳥-カンムリウミスズメと行く海の旅-」開催(入館者数：13,455人)。
 - ・平成30年7月14日～11月25日：第81回企画展「我孫子の都市鳥-都市の発展と鳥たちの移り変わり-」開催(入館者数：15,426人)。
 - ・平成30年12月8日～平成31年1月14日：第82回企画展「第14回友の会展-我孫子で子育てする鳥たち-」開催(入館者数：1,873人)。
 - ・平成31年2月2日～令和元年6月16日：第83回企画展「てがたん展-あびこで楽しむ自然観察-」

開催 (入館者 : 11, 378 人)

- ・ 令和元年 7 月 13 日～11 月 24 日 : 第 84 回企画展「世界からみた日本の鳥」開催 (入館者 : 15, 212 人)
- ・ 令和元年 12 月 7 日～令和 2 年 1 月 13 日 : 第 85 回企画展「第 15 回友の会展-万葉集の旅、鶏の鳴く東の国から太宰府まで-」開催 (入館者 : 2, 425 人)
- ・ 令和 2 年 2 月 1 日～8 月 30 日 : 第 86 回企画展「バンディング展」開催 (入館者 : 8, 183 人)
- ・ 令和 2 年 3 月 24 日 (火) ～6 月 7 日 (日) : 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため臨時休館。

1.5 博物館施設の概要

(1) 建設・設備

【設計】

- ・ 建築設計 : (有) 山下和正建築研究所
- ・ 建築工事監理 : (有) 山下和正建築研究所
- ・ 展示設計 : (株) 日展
- ・ 展示工事監理 : (株) 日展

【施工】

- ・ 建築 : 東急・上村建設共同企業体
- ・ 外構 : 東急・上村建設共同企業体
- ・ 電気 : モデン・玉田建設共同企業体
- ・ 昇降機 : (株) 日立製作所
- ・ 浄化槽 : 東急・上村建設共同企業体
- ・ 視聴覚機器 : 東信電気 (株)、(株) ナノテクニカル、光電子 (株)
- ・ 展示 : (株) 日展

【工事費】

- ・ 建築基本設計・実施設計 : 12, 200, 000 円
- ・ 建築工事 (含む本体、電気、外構、監理) :
490, 684, 500 円
- ・ 展示基本構想・基本計画 : 12, 450, 000 円
- ・ 展示工事 (含視聴覚システム) :
201, 001, 900 円
- (合計) 716, 336, 400 円

【工期】

- ・ 着工 : 昭和 63 年 10 月 (建物竣工 平成元年 7 月)
- ・ 完成 : 平成 2 年 3 月 (開館 平成 2 年 5 月 22 日)

【規模】

- ・ 敷地面積 : 4, 201. 19 m²
- ・ 博物館用地 : 1, 701. 19 m²
- ・ 駐車場用地 : 2, 500. 00 m²
- ・ 建築面積 : 607. 29 m²
- ・ 延床面積 : 1, 563. 80 m²
- ・ 一階 : 522. 65 m²
- ・ 二階 : 558. 00 m²
- ・ 三階 : 448. 08 m²
- ・ 塔屋階 : 26. 07 m²
- ・ 浄化槽機械室 : 9. 00 m²
- ・ 展示面積 : 585. 53 m²
- ・ 構造規模 : 鉄筋コンクリート造地上 3 階建
- ・ 建築基礎 : 直接基礎
- ・ 建物高 : 地上 18. 8m

(注) 建築面積、延床面積は建物建築確認申請に基づく数値

【空調設備】

- ・ 空調システム : ガス焚冷温水発生機によるセントラル空調システム (事務室は室外機設置によるエアコン)
- ・ 空調系統 : 3 階展示室 : 空調機によるダクト方式
- ・ その他 : ファンコイルによる個別方式
- ・ 換気システム : 小型全熱交換器、または天井扇に

よる局所換気

- ・除湿器：収蔵庫及び展示室に設置【衛生設備】
- ・給水方式：1階・2階：水道直結方式（吸引口径50φ）、3階：小型受水槽及びポンプ圧導方式
- ・排水方式：汚水は下水道直結（平成21年11月に浄化槽から公共下水道へ接続工事）。雨水は別系統とし、床下ピット（調整槽）に貯留後排水。
- ・給湯方式：ガス瞬間湯沸器による個別方式
- ・ガス：都市ガス

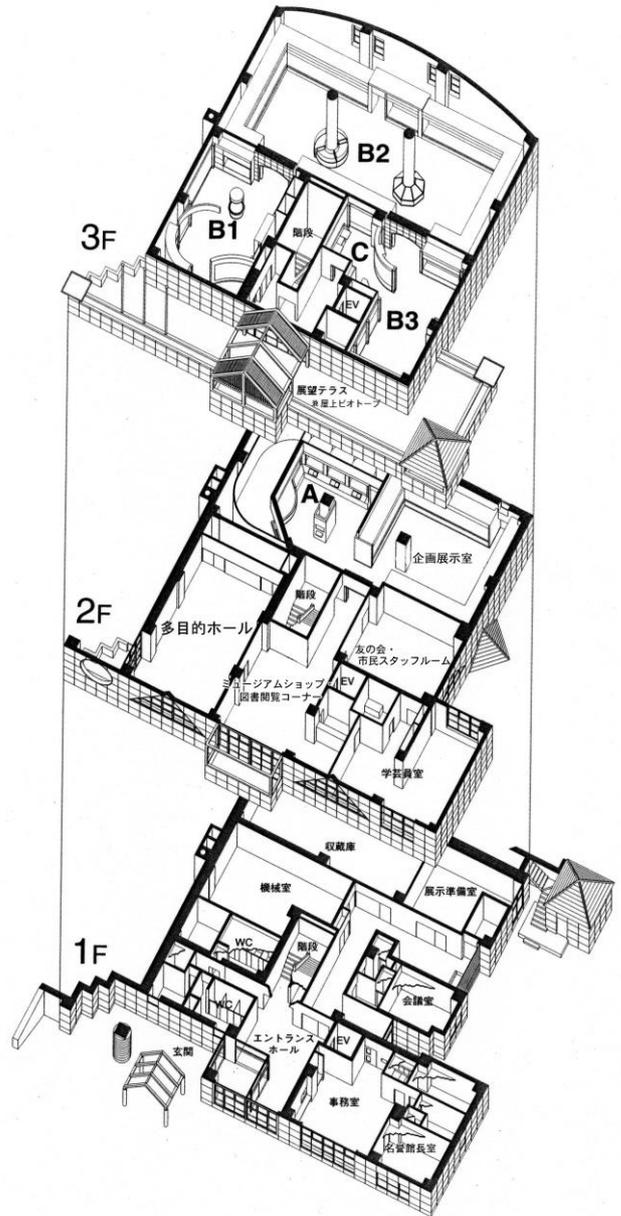
【消火設備】

- ・消火器
- ・ハロゲン消火（収蔵庫）

【電気設備】

- ・受変電設備：受電電圧 3相3線式 6,600V
変圧器 3相 75KVA 1台、単相 25KVA 1台
コンデンサー 3相 25KVA 2台
屋外キュービクル型
- ・監視設備：
受変電設備故障監視
動力設備遠方発停故障監視
照明（コンセント）設備
共同リモコン制御
- ・動力設備：
一般動力 3相 200V
- ・照明設備：
LEDダウンライト（2階・3階展示室、2階多目的ホール、2階友の会ルーム、1階エントランスホール）
LEDスポットライト（2階・3階展示室）
蛍光灯（事務室、展示ケース内照明、その他）
スポットライト（1階展示準備室）
- ・誘導灯非常灯：
バッテリー内蔵型
- ・拡声設備：
120W10局壁掛型
全館非常放送 120W 10局用
多目的ホール放送、エレベーター専用放送
- ・自動火災報知設備：
P型1級20回線
- ・防犯設備
開口部感知装置：無人化監視装置
- ・電話設備：
IP電話 11台
- ・テレビ共振設備：
視聴覚用 VHF・UHF・BS
- ・昇降機設備：
乗用ロープ式、定員 11名（積載荷重750kg）、速度 60m/分

(2) 館内見取り図



- (注) 2階 A：展示室「手賀沼の自然と鳥」
3階 B1～3：展示室「鳥の世界」
3階 C：展示室「人と鳥の共存」

(3) 用途別面積

・1階

室名	室数	延べ床面積 (㎡)
事務室	1	51.51
給湯室	1	4.19
名誉館長室	1	20.09
更衣室	1	8.86
休憩救護室	1	13.53
会議室	1	19.85
燻蒸室	1	7.18
展示準備室	1	35.04
収蔵庫	1	82.24
機械室	1	60.22
事務倉庫	1	11.39
清掃員室	1	9.32
トイレ	1	33.37
職員用トイレ	1	12.9
エントランスホール	1	38.24
風除室	1	12.6
荷解室	1	25.29
階段室	1	19.95
エレベーター室	1	5.28
廊下	2	50.85
その他P S等	-	0.75
合計		522.65

・2階

室名	室数	延べ床面積 (㎡)
学芸員室	1	69.91
暗室	1	8.04
友の会・市民スタッフ ルーム	1	51.82
多目的ホール	1	89.77
倉庫	1	10.97
ミュージアムショッ プ・図書閲覧コーナー	1	43.83
常設展示室	1	107.33
企画展示室	1	107.71
階段室	1	19.65
エレベーター室	1	5.28
廊下室	1	40.91
その他P S等	-	2.78
合計		558

・3階

室名	室数	延べ床面積 (㎡)
常設展示室	1	370.49
階段室	1	31.26
エレベーター室	1	5.28
エレベーターホール	1	30.1
その他P S等	-	10.95
合計		448.08

・搭屋階

室名	室数	延べ床面積 (㎡)
エレベーター機械室	1	10.53
階段室	1	10.31
その他P S等	-	5.23
合計		26.07

・別棟

室名	室数	延べ床面積 (㎡)
旧浄化槽機械室	1	9.00

(注) 各面積は、建築設計図面からの面測値
 は、来館者専用エリア

2 教育普及

2.1 展示

(1) 常設展示

常設展示は、①手賀沼の自然と鳥たち、②鳥の世界、③人と鳥の共存、以上三つのテーマで構成される。

テーマごとの展示内容は次のとおり。

①手賀沼の自然と鳥たち

我孫子市の自然を代表する手賀沼を取り上げ、関東平野の中央に位置するという地理的な特徴、干拓による地形的な変遷、生物相の変遷など、鳥が生活する舞台としての手賀沼の特徴を紹介している。

また、いま手賀沼ではどんな鳥がどの様に生活しているのか、四季折々の典型的な情景をジオラマ(生態展示)で具体的に表現した。

むかし手賀沼で見られた鳥についても取り上げ、「野鳥の宝庫」と言われたかつての手賀沼の様子を示した。

さらに、ビデオで手賀沼の鳥の季節ごとの暮らしを再現した。

②鳥の世界

「鳥」とはどんな動物なのか理解を深めるために、生物学的視点から鳥の特徴を取り上げた。

鳥の起源と進化、分類について、世界の鳥の分類展示、飛翔のしくみの各項目で構成した。

始祖鳥の化石の復元模型や約 300 点の世界の鳥の剥製、骨格標本、飛翔標本などを展示。

③人と鳥の共存

絶滅の危ぶまれる「トキ」の剥製展示を導入として、人と鳥とのかかわりあいの歴史についてふれた。

最後の一羽にならないために、人のしてきたこと、帰らぬ鳥たち、共に生きるために、以上の各項目で構成。

(その他)

- ・タッチ式デジタルサイネージ (2 階)
平成 27 年度より手賀沼コーナーに設置。

- ・Q&A コーナー (3 階)
展示室の最後に、博物館の展示で学んだことの復習ができるコーナーを設置している。

鳥あてクイズ、鳥のものしりクイズ、我孫子の自然クイズ、以上三つのクイズが楽しめる。

(2) 企画展示

(企画展示室にて開催)

- ◆第 83 回企画展「てがたん展～あびこで楽しむ自然観察～」

(期間)平成 31 年 2 月 2 日 (土)～令和元年 6 月 16 日 (日)

(内容)鳥の博物館が平成 16 年 4 月から毎月実施している身近な自然観察会「てがたん」のこれまでの成果とその楽しみ方を紹介した。

- ◆第 84 回企画展「世界からみた日本の鳥」

(期間)令和元年 7 月 13 日 (土)～11 月 24 日 (日)

(内容)山地が多く、四季の変化に富み、海洋に囲

まれた東アジアの島国日本で育まれた鳥たちの特徴を紹介した。

- ◆第 85 回企画展「第 15 回友の会展 万葉集の旅～鶏の鳴く東の国から太宰府まで～」

(期間)令和元年 12 月 7 日 (土)～令和 2 年 1 月 13 日 (日)

(内容)鳥の博物館友の会の万葉集同好会が中心となって調べた万葉の鳥について紹介。合わせて、令和元年度の友の会活動の成果を展示した。

- ◆第 86 回企画展「バンディング展～足環でわかる鳥の渡り～」

(期間)令和 2 年 2 月 1 日 (土)～8 月 30 日 (日)

当初令和 2 年 6 月 14 日 (日)までの予定であったが、3 月 24 日 (火)より 6 月 8 日まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館としたため開催期間を延長した。

(内容)鳥の標識を付けて渡りや寿命を調べるバンディング(標識調査)を取り上げ、調査の方法や成果を紹介した。なお、本企画展は、環境省の委託事業としてバンディングを実施している公益財団法人山階鳥類研究所との共催で行った。

(3) その他展示

- ◆鳥の科学作品展

期間:令和元年 7 月 20 日 (土)～9 月 1 日 (日)

内容:平成 30 年度の小中学生科学作品展に出展された鳥に関する自由研究作品 9 点を借用し玄関ホールに展示した。

2.2 展示ガイド

◆ ガイドツアー

原則として、毎週土・日曜日及び祝日の午前と午後、約30分ずつ展示案内を行っている。

◆ 団体解説

事前に来館者の希望があればガイドを行っている。令和元年度は、団体解説・ガイドツアー合わせて、延べ1,492人に対して案内を行った。なお、新型コロナウイルス感染症拡大により3月の団体見学は全てキャンセルされ、開館期間中には定例ガイドツアーのみを行った。内訳は以下の通り。

＜令和元年度団体解説・ガイドツアー利用者数＞

月	件数	人数
4月	10	99
5月	16	220
6月	14	373
7月	7	107
8月	7	189
9月	6	72
10月	9	155
11月	7	77
12月	5	110
1月	5	57
2月	6	30
3月	2	3
合計	94	1,492

◆ 市民スタッフによる展示交流等

館内の案内・解説や来館者との交流を行った。令和元年度は、9人の展示交流スタッフ(市民スタッフ)により269日行った。

2.3 観察会・講座・フロアスタッフイベントほか

(1) 観察会

◆ 定例手賀沼探鳥会 (てがたん)

(日時) 毎月第2土曜日10時から12時まで

(場所) 博物館前広場、親水広場水の館、手賀沼遊歩道、水生植物園

(参加者総人数) 323人

第1回 4月13日「鳥のプロポーズ」46人

第2回 5月11日「あびこの自然の『音風景』」33人

第3回 6月8日「歌で楽しむ自然観察」22人

第4回 7月13日「てがたんしりとり」34人

第5回 8月10日「外来種ってどんな生き物？」34人

第6回 9月14日「虫を狙う生きものたち」20人

第7回 10月12日「樹木と鳥『持ちつもたれつ』」

29人

てがたん in JBF 11月2日、3日 各14人、9人

第8回 11月9日「モズのはやにえを探そう」25人

第9回 12月14日「冬でも虫観察」34人

第10回 1月11日「手賀沼のタカとハヤブサの仲間」

23人

第11回 2月8日「暮らしの役に立つ草」25人

第12回 3月14日「鳥帰る」新型コロナウイルス感染症対策のため中止

◆ バードウィーク手賀沼探鳥会

(日時) 令和元年年5月6日(日)9:00~12:00

(場所) 中沼田と下沼田の水田地帯

(参加者) 21人

◆ あびこ自然観察隊

・第1回「シギ・チドリに会いに行こう」

(日時) 令和元年年5月6日(日)9:00~12:00

(場所) 新木駅から手賀川までの間の水田地帯

(参加者) 21人

・第2回「手賀沼の魚をみよう」

(日時) 令和元年7月27日(土)10:00~12:00

(場所) 鳥の博物館、手賀沼

(参加者) 雨天のため中止

・第3回「夜の動物観察会」

(日時) 令和元年12月7日(土)19:00~21:00

(場所) 利根川ゆうゆう公園

(参加者) 14人

・第4回「観察しよう!手賀沼の冬鳥」

(日時) 令和2年2月16日(日)9:00~12:00

(場所) 手賀の丘の森および手賀沼湖畔

(共催) 手賀の丘少年自然の家

(参加者) 雨天のため中止

・第5回「春の谷津田観察会」

(日時) 令和2年3月15日(日)9:30~12:00

(場所) 岡発戸・都部の谷津田

(参加者) 新型コロナウイルス感染症対策のため中止

(2) 講座

◆ テーマトーク

山階鳥類研究所研究員および鳥の博物館学芸員による鳥類に関する研究紹介と質疑応答。毎月第2土曜日の13時15分から14時00分まで、多目的ホールにて実施。

令和元年度は10回開催。参加総人数:279人。

・第1回 4月20日「フラッグ付きシギ・チドリの観察記録」講師:千田万里子さん(山階鳥類研究所保全研究室研究員) 参加者:32人

・第2回 5月18日「日本に渡って来るハマシギの亜種はどれ?」講師:茂田良光さん(山階鳥類研究所客員研究員) 参加者:26人

・第3回 6月5日「万国共通な学名が図鑑によって違うわけ〜キジやコウノトリはどうなってる?」講師:平岡考さん(山階鳥類研究所広報室コミュニケーションディレクター) 参加者:18人

・第4回 7月20日「渡り鳥の不思議〜春と秋

で違うルートを使う種類がいるのはなぜ?～」
 講師：仲村昇さん(山階鳥類研究所保全研究室
 研究員) 参加者：52人

- ・第5回 8月17日 「鳥類標本の作り方～いろ
 んな標本を作ってみよう～」 講師：岩見恭子
 さん(山階鳥類研究所自然誌研究室研究員) 参
 加者：34人
- ・第6回 10月19日 「我孫子駅におけるイソヒ
 ヨドリの繁殖調査」 講師：岩本二郎(鳥の博
 物館学芸員) 参加者：31人
- ・第7回 12月21日 「実は日本のカモメ類が減
 っています」 講師：富田直樹さん(山階鳥類
 研究所保全研究室研究員) 参加者：26人
- ・第8回 1月18日 「絶滅寸前?オガサワラカ
 ワラヒワの特徴とその保全」 講師：齋藤武馬
 さん(山階鳥類研究所自然誌研究室研究員) 参
 加者：20人
- ・第9回 2月15日 「鳥の色彩と構造色」 講
 師：森本元さん 参加者：40人
- ・第10回 3月21日 「鳥の換羽とその野外観察
 の面白さ」 講師：小田谷嘉弥(鳥の博物館学
 芸員) 新型コロナウイルス感染症拡大防止の
 ため中止

◆鳥学講座

- ・「島の鳥類学～南西諸島の鳥をめぐる自然史～」
 日時：令和元年11月2日(土) 13:30～15:30
 講師：高木昌興さん(北海道大学大学院理学研究員
 教授)、水田拓(山階鳥類研究所保全研究室長)、
 尾崎清明さん(山階鳥類研究所副所長)
 場所：アピスタ(我孫子市生涯学習センター)
 1階ホール
 内容：高木さんには『鳥の鳥類学』の面白さ～リ
 ユウキュウコノハズクを例に～、水田さんには
 『南西諸島の鳥類学』の面白さ～オオトラツグミ
 を例に～をお話いただき、その後ヤンバルク
 イナ発見と調査にかかわった尾崎さんのコーディネ
 ートにより、南西諸島の鳥の自然史について来
 場者との質疑応答を行った。
 参加者数：172人

◆JBF2019 ゲストトーク

- ・「台湾野鳥交流活動～海外野鳥観察旅行の新たな楽
 しみ方～」
 日時：令和元年11月3日(日) 10:30～11:30
 場所：鳥の博物館2階 多目的ホール
 講師：林憲文さん(台湾鳥会会長)、間野吉幸さん
 (我孫子野鳥を守る会前会長)
 内容：林さんには、固有種が多い台湾の鳥とその観
 察のコツや楽しみ方を、間野さんには、林さんと
 我孫子野鳥を守る会との交流の歴史や活動内容
 についてお話いただいた。
 参加者：30人

◆鳥博セミナー

- ・「ハクセキレイの標識調査」
 日時：令和2年2月23日(土) 13:30～15:00
 場所：鳥の博物館2階 多目的ホール
 講師：亀谷辰朗さん(ハクセキ道場)、森本元さん
 (山階鳥類研究所保全研究室研究員)
 内容：調査対象をハクセキレイに絞った20年間に
 渡る鳥類標識調査のデータをもとに、雌雄・成
 幼の判別の詳細についてお話いただいた。
 参加者：43人

(3)フロアスタッフイベント

◆鳥凧教室1

- 日時：令和元年5月5日(日)
 13:30～15:30
 場所：鳥の博物館2階多目的ホール
 内容：ビニールと竹ヒゴで鳥型の凧を作り、屋外で
 揚げた。
 参加者：28人(鳥凧作製は14組)
 共催：鳥の博物館友の会

◆鳥のゴムバンドを作ろう

- 日時：令和元年5月12日(日)
 10:00～12:00、13:30～15:30
 場所：鳥の博物館2階多目的ホール
 内容：鳥をあしらったボタンのついた多目的に使える
 ゴムバンドを作製した。
 参加者：161人
 共催：鳥の博物館友の会

◆夏の遊びと研究大集合2019

- 期間：令和元年8月1日(木)から9月1日(日)
 までの土曜日・日曜日・祝日
 時間：13:30～14:30
 場所：多目的ホール
 参加者：延べ482人
 内容：
 - 8月3日：恐竜時代の化石発掘たいけん(68人)
 - 8月5日：ダチョウの全身骨格を組み立てよう
 (52人)
 - 8月10日：ブーブーカモ笛(30人)
 - 8月11日：メダカでアクアリウム(68人)
 - 8月12日：ゴーストミミズク(42人)
 - 8月17日：最強の動物!クマムシを探せ(46人)
 - 8月18日：ブーブーカモ笛(44人)
 - 8月24日：ふくろうホバークラフト(32人)
 - 8月25日：ゴーストミミズク(30人)
 - 8月31日：ダチョウの全身骨格を組み立てよう
 (30人)
 - 9月1日：くるくるトリコプター(40人)

◆JBF企画①ハシビロコウの帽子をつくろう

- 日時：令和元年11月2日(土)、11月3日(日)
 10:00～11:00
 内容：折り紙でハシビロコウの形をした帽子を作製。

参加者：合計 60 人

◆JBF 企画②鳥博クイズ

日時：令和元年 11 月 2 日 (土)、11 月 3 日 (日)
14:00~15:30

内容：館内展示の中から答えを探すクイズを行った。
参加者：合計 300 人

◆鳥凧教室 2

日時：令和 2 年 1 月 5 日 (日)
13:30~15:30

場所：鳥の博物館 2 階多目的ホール
内容：ビニールと竹ヒゴで鳥型の凧を作り、屋外で揚げた。

参加者：33 人 (鳥凧作製は 14 組)
共催：鳥の博物館友の会

2.4 出版物

◆我孫子市鳥の博物館報 第 29 号 (平成 30 年度版)
A4 判 23 ページ、鳥博ホームページにて PDF 配信

◆あびこ鳥だより

A4 判 4 ページ、鳥博ホームページにて PDF 配信、館内配布
・2019 年春号 (通巻 54 号) 平成 31 年 4 月 15 日
・2019 年夏号 (通巻 55 号) 令和元年 7 月 25 日
・2019 年秋号 (通巻 56 号) 令和元年 10 月 25 日
・2019 年冬号 (通巻 57 号) 令和 2 年 1 月 20 日

◆鳥博日記

鳥博ホームページにて配信

◆とりはく自然通信

鳥博ホームページにて配信

2.5 広報・取材協力

【書籍・雑誌・パンフレット】

- ・一般社団法人柏法人会会報：一般社団法人柏法人会、博物館紹介、令和元年 10 月
- ・あんふあん (サンケイリビング新聞)：動物に会えるスポット特集、博物館とその周辺紹介、令和元年 8 月 24 日
- ・ホットペッパー 4 月号：ワクワクおでかけ情報、博物館紹介、令和 2 年 2 月 14 日

【新聞・地域情報誌】

- ・あびっ子ネット：鳥の博物館イベント情報 (毎月)
- ・ぐるっと千葉：鳥の博物館イベント情報 (毎月)
- ・アビプレ：鳥の博物館イベント情報 (毎月)
- ・Dokka!おでかけ情報：GW 直前お出かけ情報、博物館情報、令和元年 4 月 18 日
- ・朝日新聞：私のイチオシコレクション、博物館の収蔵標本紹介、令和元年 4 月 19 日 (掲載)
- ・千葉 Walker:ジモト満喫!千葉遊びランキング 50、博物館情報、令和元年 6 月 14 日
- ・朝日新聞：コラム「気になる一品」、ミュージアム・ショップのオリジナルグッズ紹介、令和元年 6 月 25 日 (掲載)

- ・みんなの情報誌：夏休みイベント情報、鳥の科学作品展紹介、令和元年 7 月 30 日
- ・リビングかしわ：コラム「えるプラザ」、企画展紹介、令和元年 8 月 9 日 (発行)
- ・リビングかしわ：、まち Topics、博物館紹介、令和 2 年 1 月
- ・いんざいインフォメーション (クボタデザイン)：記事、企画展紹介、令和 2 年 3 月 11 日
- ・DK セレクト進化する暮らし：情報コーナー、博物館紹介、令和 2 年 3 月 31 日
- ・リビングかしわ：東葛エリアの魅力 10 選、博物館紹介、令和 2 年 3 月 31 日

【テレビ・ラジオ】

- ・出没アドック天国：株式会社フルハウス、令和元年 11 月 30 日 (放送)

【インターネット情報サイト】

- ・JR 東日本「旅行・観光」おすすめ情報：協同組合インフォメーションテクノロジー関西、博物館紹介、令和元年 9 月 13 日
- ・るるぶ&mor 観光データベース：るるぶ編集部、博物館紹介、令和 2 年 1 月 7 日
- ・観光アプリ Japan City Guide：合同会社ジャックオブオートレイズ、博物館紹介、令和 2 年 2 月 7 日

2.6 職場体験受入

- ・我孫子市立我孫子中学校 1 年生
実施日：令和元年 8 月 21 日、22 日
受入人数：1 人

2.7 出前授業・講師派遣・アドバイザー・委員会など

- ・日本鳥類目録編集委員会
実施：平成 30 年 10 月 19 日~令和 4 年
内容：日本鳥類目録改訂第 8 版編集委員の委嘱。
・わんぱく SMILE 松島園
実施日：令和元年 6 月 4 日
内容：幼稚園児を対象としたセミナーへの講師派遣。鳥の鳴き声と子育てのお話と工作を実施。
・手賀沼水環境保全協議会・水生植物再生活用事業検討委員会
実施日：令和元年 7 月 20 日
内容：手賀沼親水広場にあるミニ手賀沼にいる水生動物調査および水草の植栽イベントへアドバイザーとして参加。
・水生植物再生活用事業検討委員会
実施：令和 2 年 1 月 30 日
内容：水生植物再生活用事業検討委員会

2.8 研修受入

- ・日本女子大学
実施日：令和元年 8 月 14 日
内容：日本女子大学博物館実習夏期集中講義

参加人数：7人 (日本女子大学)

2.9 鳥に関する質問

入館者、電話、窓口、手紙などでの問合せ数・内容を把握するため、質問を受けた数を記録し集計した。

鳥の生態、傷病鳥の保護についてや、手賀沼の鳥のこと、写真の鳥の同定など鳥に関するさまざまな質問があった。

<令和元年度 質問件数>

月	件数
4月	61
5月	97
6月	75
7月	31
8月	44
9月	24
10月	21
11月	13
12月	10
1月	21
2月	32
3月	14
合計	443

2.10 違法飼育鳥鑑定協力

- 千葉県東金警察署
ホオジロ 10羽
令和元年5月22日

3 調査研究

職員により、次の調査研究活動を行った。

- ◆手賀沼の鳥類生息状況調査：通年 (小田谷・岩本・村松・染谷)

手賀沼の鳥類の生息状況を把握する目的で、手賀沼の水域を対象に毎月1回のセンサス調査を実施した。

- ◆手賀沼生物調査

手賀沼周辺に生息する生物の生息状況を把握する目的で、市民スタッフの協力を得て調査を実施した。

- ・手賀沼オオバン繁殖個体数調査
令和元年4月17日
- ・手賀沼オオヨシキリのソングポストのカウント調査 (さえずり地点調査)
令和元年5月16日

4 資料の収集・保存

4.1 標本資料

鳥の博物館では、調査研究・教育普及活動に役立てるために、さまざまな方の協力のもとに各種鳥類の資料（おもに斃死鳥）を収集している。

収集した資料は、剥製標本や骨格標本として計画的に活用している。

令和元年度における標本の収蔵状況は次のとおりである。

収蔵標本総数（令和2年3月31日調べ）

種類	収蔵標本	常設展示標本
本剥製	1,960(1,939)	382(382)
仮剥製	316(311)	0(0)
部分剥製	34(34)	1(1)
全身骨格	466(462)	37(37)
部分骨格	27(27)	17(17)
化石	2(2)	0(0)
化石レプリカ	4(4)	7(7)
模型	33(33)	7(7)
巣	43(37)	12(12)
卵	67(47)	27(27)
卵レプリカ	19(19)	3(3)
羽毛	多数	51(51)
道具	1(1)	35(35)
小計	2,972(2,947)	579(579)
合計	3,551(3,526)	

注1. ()内は昨年度末の点数

4.2 図書資料

鳥の博物館で収蔵する図書資料は、次のとおりである。

蔵書数（令和2年3月31日調べ）

区分	収蔵冊数
国内書籍	4,023(3,972)
国外書籍	482(480)
国内雑誌	10,320(10,125)
国外雑誌	1,457(1,455)
合計	16,282(16,032)

※ ()内は昨年度末の冊数。国内・国外雑誌は、重複したものと不用なものを整理したため冊数が減じた。

4.3 資料等貸出利用協力

(1) 資料の特別利用および貸出

鳥の博物館で収蔵する標本および写真資料の貸し

出し利用については、利用目的の合理性と保守管理の適切さを判断し、館内での利用および館外への貸し出しを行った。

① 標本の館内特別利用 66件(276点)

学術利用および絵画やバードカービング製作の参考とするための閲覧。

② 標本資料等の館外貸出

・企画展「絶滅動物研究所」、名古屋市科学館、コアジサシ・メグロ以上剥製標本全2点、令和元年7月6日～9月8日

・特別展「アオバトの不思議～森のハト、海へ行く～」、神奈川県立生命の星・地球科学館、カラスバト・キンバト・ベニバト・ズアカアオバト・ハチクマ以上剥製標本全5点および始祖鳥模型1点、令和元年7月1日～11月29日

③ 撮影協力・画像資料等の提供

・我孫子国際交流祭り、我孫子国際交流協会、アホウドリヒナ模型1点および写真パネル4点、令和元年11月21日～11月27日

・放送大学アーカイブ・特別講座セレクション「鳥の渡りを追う」、NHK エデュケーショナル、ハチクマ剥製の映像、令和2年2月～令和4年1月

・書籍「いきものづくし ものづくし」、福音館書店、スズメの卵標本の撮影、令和元年8月6日

・学習まんが百科、小学館、ハンボソミズナギドリの全身骨格、令和元年10月8日

・コブハクチョウ基礎データ収集、柏市環境政策課、コブハクチョウの営巣写真および営巣場所情報、令和元年11月15日

・Eテレ「なりきり！むーにゃん生きもの学園」、株式会社全力カンパニー、令和元年12月3日

・フジテレビ系列「潜在能力テスト」、株式会社オクタゴン、セキセイインコの画像、令和元年12月4日

・小学生新聞、共同通信社、ハヤブサ・オオミズナギドリの飛翔画像、令和元年9月11日

・情報収集

④ 標本資料サンプルの提供

・アカハラの系統研究、京都大学農学部、組織片および羽毛の一部、令和元年6月25日

・イソヒヨドリの系統研究、慶応大学、羽毛の一部、令和2年2月6日

(2) 備品貸出協力

博物館の運営目的に沿った公益活動に対して、備品の貸出を行った。

・双眼鏡の貸出
4団体のべ66台

4.4 燻蒸

(1) 全館燻蒸

博物館の建物全体を対象とした燻蒸を、次の要領で行った。

・実施日：令和元年6月23日～24日

・使用薬剤：エコミューアールFT ドライガス（ピレスロイド系炭酸ガス製剤）

- ・ 燻蒸時間：8 時間以上
- ・ 薬剤注入方法：専用特殊ノズルで空中に噴霧
- ・ 効果判定：コクゾウムシ成虫を使用した効果判定を 1 階収蔵庫・2 階展示室・3 階展示室で行った結果、すべて 100%の殺虫効果を確認。

(2) 標本食害虫生息状況調査

燻蒸効果を確認するため、標本食害虫の生息状況を定期的に調査した。毎月 1 回約 1 か月間のトラップ設置による食害昆虫の捕獲調査を実施した。

(3) 簡易燻蒸

簡易燻蒸は、企画展終了時や新作標本納品時、貸し出し標本返却時など、標本資料の収蔵庫からの出し入れに伴い、随時職員が実施した。

令和元年度は 4 回実施した。

注. 簡易燻蒸の方法：燻蒸室（床面積 7.18 m²）内で鳥の博物館仕様の「ふくろうくん（日本液炭）」（容量 5.4 m³の気密バッグ）を用い、炭酸ガスを注入し、濃度約 70%で 2 週間処理した。

5 総務ほか

5.1 組織

「我孫子市鳥の博物館」は、我孫子市教育委員会生涯学習部に属する機関である。令和元年度の鳥の博物館職員および組織構成は次のとおり。

(1) 職員名簿

職名	氏名
名誉館長*1	奥野 卓司
館長	齊藤 安行
主査長	近藤 裕子
主任	岩本 二郎
主任学芸員	小田谷 嘉弥
嘱託学芸員	村松 和行
嘱託学芸員	染谷 実紀
事務補助臨時職員	9 人登録、常時 2 人勤務

注. *1 名誉館長は非常勤特別職

(2) 市民スタッフ

令和元年度の市民スタッフ登録者は 27 人であった。

5.2 予算の執行状況

予算の執行状況は次のとおり。

<令和元年度>

(1)歳入

費目	決算額(千円)	備考
入館料	2,741	博物館入館料
博物館記念品 売捌収入	3,405	ミュージアムシ ョップ記念品売 上
雑入	24	行政財産使用料 (郵便ポスト) 観察会参加料
計	6,171	

(2)歳出

費目	決算額(千円)	備考
非常勤特別職 人件費	1,200	名誉館長報償費
非常勤一般職 人件費	7,615	嘱託職員人件費
博物館運営費	10,616	教育普及事業 開催等諸経費
ミュージアム ショップ運営費	2,892	ミュージアムショッ プ用販売品購入 等
施設維持管理費	9,941	光熱水費、 清掃委託等
負担金・補助金	1,231	賛助金 補助金
計	33,493	

※費目毎に千円未満切り上げ

5.3 ミュージアムショップの運営

鳥の博物館のミュージアムショップは、来館記念になるものや博物館の教育普及活動に役立つものを提供する目的で、博物館が直営している。

ガイドブックや小物類など、当館独自に開発した品物等を常に100種類以上用意し、販売している。

令和元年度のおもな取扱商品一覧

ハンカチ類 手ぬぐいオオバン
ガーゼマフラー
ガーゼバスタオル
ガーゼハンドタオル
鳥プリントハンカチ
鳥博ハンドタオル

衣類 ポロシャツ(半袖)
ネクタイ
オリジナル軍手
靴下

書籍 日本の野鳥550
フィールドガイド日本の野鳥
水辺の鳥(ポケット図鑑)
新山野の鳥(ポケット図鑑)
新山野の鳥CD
水辺の鳥CD
カエルハンドブック
日本の昆虫1400

食器類 箸置き
オリジナル湯のみ
オリジナルマグカップ

装身具 ツバメのバンダナ
ピンバッジ
携帯ストラップ
キーホルダー
鳥のぬいぐるみストラップ
オオバンぬいぐるみストラップ
七宝焼ブローチ・タイタック

鳥博出版物 ペンギンのルーツをさぐる
鳥だより縮刷版
企画展ガイド「鳥の目のしくみとは
たらき」
企画展ガイド「あしのはたらき」
企画展ガイド「餌とくちばし」
鳥の博物館見学ノート
フィールドガイド「手賀沼の鳥」
鳥の博物館総合展示案内
黒田長久・鳥絵の夢(企画展図録)

文房具 オリジナルフィールドノート
クリアファイル
オリジナル絵葉書各種
スティックメモ
動物ブロックメモ
ふせん
一筆せん
オリジナルボールペン
シールセット
ブックマーカー
ペンギンクリップ
メガネクロス
声の聞こえるペン

フィギュア ペンギンズボックス
単品フィギュア

食品 オオバンクッキー
チーズスティック

その他 バードコール
足跡トートバッグ
巣箱(完成品・キット)
オリジナルペーパークラフト
ポスター
トランプ

木の笛
お手玉
ぬいぐるみ
ビニール傘
フクロウがまぐち

5.4 入館者数

令和元年度の総入館者数は32,624人であり、前年度より571人の減となった。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年3月24日から6月7日まで臨時休館したためと考えられる。

入館者数が最も多かったのは、11月の6,509人、次いで5月の4,045人であった。

11月は、全国から多くの鳥類関係者が集うイベント「ジャパンバードフェスティバル」が開催され、来場者の多くが当館も訪れたためである。5月は手賀沼をテーマとしたイベント「Enjoy 手賀沼」が親水広場で開催され、隣接する鳥の博物館にも多くの来館者が訪れたことによる。

なおEnjoy 手賀沼(5月12日)、国際博物館の日(5月18日)、開館記念日(5月22日)、県民の日(6月15日)、市制施行記念日(7月1日)の代行日(6月30日)、ジャパンバードフェスティバル(11月2日、3日)の各記念日は無料開放日とした。

令和元年度の入館者数

月	小・中学生	高・大学生	一般	無料・免除	館外学習	合計
4月	277	27	903	888	61	2,156
5月	1,204	35	884	1,889	33	4,045
6月	1,179	24	545	1,306	22	3,076
7月	421	27	766	937	34	2,185
8月	850	131	1,475	1,291	34	3,781
9月	284	38	796	1,012	19	2,149
10月	189	26	480	973	0	1,668
11月	1,096	127	551	4,515	220	6,509
12月	210	80	618	814	119	1,841
1月	306	26	702	787	41	1,862
2月	211	28	892	937	25	2,093
3月	241	51	530	437	0	1,259
合計	6,468	620	9,142	15,786	608	32,624
前年	6,887	778	9,405	15,488	637	33,195
比較	-419	-158	-263	298	-29	-571

令和元年度の主要な無料・免除入館者数の内訳

月	学校行事	友の会会員
4月	0	152
5月	350	91
6月	911	95
7月	123	102
8月	59	104
9月	3	78
10月	73	173
11月	128	126
12月	40	186
1月	135	152
2月	2	165
3月	0	74
合計	1,824	1,498
前年	2,248	1,658
比較	-424	-160

6 条例・規則

○我孫子市鳥の博物館条例

平成元年 9 月 28 日条例第 26 号
改正

平成 7 年 3 月 29 日条例第 9 号
平成 13 年 12 月 28 日条例第 35 号
平成 26 年 3 月 26 日条例第 15 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 18 条の規定により、博物館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 鳥類及び鳥類に関連する資料(以下「博物館資料」という。)の収集、保管及び展示をするとともに、その調査研究及び普及活動を通じて、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とし、我孫子市鳥の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位置)

第 3 条 博物館は、我孫子市高野山 234 番地 3 に置く。

(事業)

第 4 条 博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 博物館資料を収集し、保管し、展示し、及び閲覧利用させること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究をすること。
- (3) 博物館資料に関する研究会、講演会、講習会、映写会、観察会等の主催及び奨励をすること。
- (4) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、調査研究書等の作成及び頒布をすること。
- (5) 博物館に関する情報及び参考資料の紹介及び提供をすること。
- (6) 他の博物館、学校、研究所、学会その他関係機関等と連絡及び協力をする事。
- (7) 前各号に掲げる事業のほか第 2 条に規定する目的を達成するために必要な事業

(入館料の徴収等)

第 5 条 博物館に入館しようとする者(中学生以下の者を除く。)は、別表に定める入館料又は 3 館共通入館料を納めなければならない。ただし、我孫子市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が特に必要があると認めたときは、入館料を免除することができる。

2 既に納めた入館料及び 3 館共通入館料は還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付することを適当と認めたときは、この限りでない。

3 期間を定めて特別の博物館資料を展示する企画展の入館料は、教育委員会が別に定める。

(職員)

第 6 条 博物館に、館長、学芸員その他必要な職員を置く。

2 博物館に、名誉館長を置くことができる。

(委任)

第 7 条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 7 条の規定は、平成元年 10 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 7 年 3 月 29 日条例第 9 号)

(施行期日)

1 この条例は、平成 7 年 4 月 1 日から施行する。
(我孫子市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 我孫子市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和 31 年条例第 16 号)の一部を次のように改正する。

別表第 1 第 4 号の表中「鳥の博物館館長」を「鳥の博物館名誉館長」に改める。

附 則 (平成 13 年 12 月 28 日条例第 35 号抄)

(施行期日)

1 この条例は、平成 14 年 7 月 1 日から施行する。

(委員の任期に関する経過措置)

2 この条例の施行の日の前日において従前の(中略)鳥の博物館協議会の委員である者の任期は、当該委員の任期を定めたそれぞれの条例の規定にかかわらず、その日に満了する。

附 則 (平成 26 年 3 月 26 日条例第 15 号)

この条例は、平成 26 年 4 月 26 日から施行する。

別表 (第 5 条関係)

区分	単位		金額	
入館料	一般	1 人 1 回につき	個人	300 円
			団体	240 円
	高校生・大学生	1 人 1 回につき	個人	200 円
			団体	160 円
3 館共通入館料	一般	1 人 1 回につき	個人	600 円
	高校生・大学生			400 円

備考

1 高校生・大学生には、学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に定める高等専門学校、専修学校、各種学校等に在学する者を含む。

2 団体とは、20 人以上の者をいう。

3 3 館共通入館料を納入した者は、当該入館料を納入した日から 1 月の間に、博物館のほか我孫子市白樺文学館及び我孫子市杉村楚人冠記念館にそれぞれ 1 回入館することができる。

○我孫子市鳥の博物館条例施行規則

平成元年9月29日(教)規則第6号
改正

平成2年9月28日(教)規則第9号
平成3年5月1日(教)規則第2号
平成4年3月31日(教)規則第5号
平成12年12月27日(教)規則第6号
平成14年5月30日(教)規則第17号
平成15年1月31日(教)規則第1号
平成26年3月31日(教)規則第3号

(趣旨)

第1条 我孫子市鳥の博物館条例(平成元年条例第26号。以下「条例」という。)第7条の規定により、条例の施行について必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 我孫子市鳥の博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次に掲げるとおりとする。ただし、館長が必要があると認めるときは、臨時に開館日とすることができる。

(1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときはその翌日とし、当該翌日が休日に当たるときはその直後の休日に当たらない日)

(2) 1月1日から同月4日まで及び12月29日から同月31日まで

(3) 館内整理日及び館内燻蒸日

(4) 前各号に掲げる日のほか、館長が必要があると認める日

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めるときは、開館時間を変更することができる。

(入館の制限)

第4条 次の各号の一に該当するときは、博物館への入館を拒否し、又は退館を命ずることができる。

(1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2) 施設、設備、展示品等を汚損し、又は他人の迷惑となる物品、動物等を携帯するとき。

(3) 保護者又は付添人のない6歳に満たない者

(4) 前各号に掲げるもののほか、館長が管理運営上支障があると認めるとき。

(入館の手続)

第5条 博物館に入館しようとする者(中学生以下の者を除く。)は、条例第5条第1項に規定する入館料又は3館共通入館料を納入し、入場券の交付を受けなければならない。

(遵守事項)

第6条 博物館に入館した者は、次の各号に掲げる

事項を守らなければならない。

(1) 所定の場所以外での飲食、喫煙、火気使用等の行為をしてはならない。

(2) 施設、展示品等を汚損し、又は損傷してはならない。

(3) 前各号に掲げるもののほか、管理上必要な指示に反する行為をしてはならない。

(入館料の免除)

第7条 条例第5条第1項ただし書の規定により、入館料を免除することのできる場合は、次のとおりとする。

(1) 70歳以上の者が入館するとき。

(2) 障害者基本法(昭和45年法律第84号)第2条第1号に規定する障害者が入館するとき。

(3) 前各号に定めるもののほか、教育委員会が公益上必要と認めるとき。

2 入館料の免除を受けようとする者は、前項第1号及び第2号に規定する場合を除き、あらかじめ入館料免除申請書(様式第1号)を提出し、入館料免除承認書(様式第2号)の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 学術研究のため条例第2条に規定する博物館資料(以下「資料」という。)を特別に利用しようとするものは、資料特別利用申請書(様式第3号)を館長に提出し、資料特別利用許可証(様式第4号)の交付を受けなければならない。

(資料の館外貸出し)

第9条 他の博物館その他館長が適当と認めたものは、資料の館外貸出しを受けることができる。

2 資料の館外貸出しを受けようとするものは、資料館外貸出利用申請書(様式第5号)を館長に提出し、資料館外貸出利用許可証(様式第6号)の交付を受けなければならない。

3 資料の館外貸出期間は30日以内とする。ただし、館長が特に必要と認めるときはこれを延長することができる。

4 館長が必要と認めるときは、貸出期間中であつても資料の返還を求めることができる。

(損害賠償)

第10条 入館者並びに資料の特別利用を受けたもの及び資料の館外貸出しを受けたものは、自己の責めに帰すべき理由により、博物館の施設若しくは設備を損傷し、又は備品若しくは資料を亡失し、若しくは損傷したときには、これを修理し、又は損害を賠償しなければならない。

(資料の寄贈及び寄託)

第11条 博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 博物館に資料を寄贈しようとするものは、資料寄贈申請書(様式第7号)を館長に提出し、館長は博物館に資料を寄贈したものに対して、資料受領証(様式第8号)を交付するものとする。

3 博物館に資料を寄託しようとするものは、資料寄託申請書(様式第9号)を館長に提出し、館長は

資料を寄託したものに対して、資料受託証(様式第10号)を交付するものとする。

- 4 博物館に寄託資料の返還を請求しようとするものは、寄託資料返還請求書(様式第11号)を館長に提出しなければならない。
- 5 寄贈資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を記して、永くその芳志を伝えるものとする。
- 6 寄託資料は、博物館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。
- 7 博物館は、不可抗力により寄託資料の損害に対し、その賠償の責を負わないものとする。

(その他)

第12条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理運営に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成2年4月1日から施行する。ただし、次項の規定は、平成元年10月1日から施行する。

(準備行為)

- 2 博物館の開館に関し必要な準備行為は、この規則の施行前においても行うことができる。

附 則(平成2年9月28日(教)規則第9号)

この規則は、平成2年10月1日から施行する。

附 則(平成3年5月1日(教)規則第2号)

(施行期日等)

- 1 この規則は、公布の日から施行し、改正後の我孫子市鳥の博物館条例施行規則は、平成3年4月1日から適用する。

(経過規定)

- 2 この規則の施行の日前に行つた入館料の免除に係る申請、決定、その他の行為は、改正後の規則の相当規定によつてなされたものとみなす。

附 則(平成4年3月31日(教)規則第5号)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成4年4月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規則の施行の際、この規則による改正前の次の各号に掲げる規則の規定に基づき作成された様式用の用紙で、現に残存するものは、必要な調整をした上、なお当分の間、使用することができる。

(1)～(5) 省略

(6) 我孫子市鳥の博物館条例施行規則

附 則(平成12年12月27日(教)規則第6号)

この規則は、公布の日から施行する。(後略)

附 則(平成14年5月30日(教)規則第17号抄)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成14年7月1日から施行する。

附 則(平成15年1月31日(教)規則第1号抄)

(施行期日)

- 1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成26年3月31日(教)規則第3号)

この規則は、平成26年4月26日から施行する。
様式第1～11号(省略)

7 博物館入館案内

●開館時間

- ・午前9時30分から午後4時30分

●休館日

- ・月曜日 (祝日の場合は次の平日)
- ・年末年始 (12月29日～1月4日)

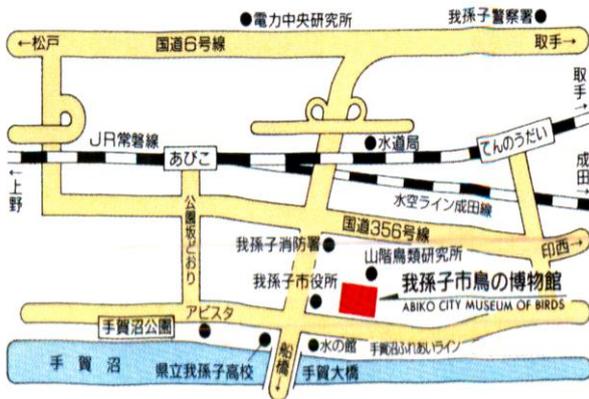
●入館料

区分	個人	団体 (20人以上の場合) 1人につき
一般	300円	240円
高校生・大学生	200円	160円

注. 企画展に限り特別料金をいただく場合があります。また、下記の入館者については入館料を免除します。

- ①乳幼児、小・中学生、70歳以上の方
- ②障害者基本法第2条に規定する心身障害者
- ③教育委員会が公益上必要と認めるとき

●案内図



●交通

平日・土日祝

J R 常磐線我孫子駅下車
↓
我孫子駅南口よりバス乗車 10分
(我孫子市役所経由)
↓
我孫子市役所前下車
↓
徒歩 5分

土日祝日のみ

J R 常磐線我孫子駅南口・
天王台駅南口より
「鳥の博物館」経由バス乗車 10分
↓
鳥の博物館前下車

我孫子市鳥の博物館報

第30号 (令和元年度版)
令和2年9月発行

編集・発行 我孫子市鳥の博物館

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3

TEL. 04-7185-2212

FAX. 04-7185-0639

URL. <http://www.bird-mus.abiko.chiba.jp>